

講義年月日 2005年3月9日(水)

講演者 茂出木 理子 氏(国立情報学研究所開発・事業部コンテンツ課課長補佐)

テーマ 国立情報学研究所の事業 ~大学図書館とともに~

講義内容

#### 1. 大学図書館と国立情報学研究所

- ・1985年より学術情報センターのNACSIS-CATが立ち上がり、書誌データの大学共同構築利用が始まった。
- ・国立情報学研究所(NII)に改組されてからの特長は、研究教育と事業の両輪をうまくまわすこと。Webcat Plusは研究成果を事業に活かした代表的なサービスである。
- ・NIIの事業は、1)学術情報基盤の整備運用事業、2)学術情報の整備運用事業、3)IT人材教育事業を3本柱にしている。

#### 2. 現在の目録所在情報事業

- ・目録所在情報事業として、1)目録システムの運営、2)図書館間相互貸借システムの運営、3)学術雑誌総合目録の作成(冊子体は終了)等を行っている。
- ・NACSIS-CATの登録件数、NACSIS-ILLの実績等の表を見る限り順調に見える。

#### 3. 現在のNACSIS-CAT、NACSIS-ILLの課題

##### 1) 共同構築、相互利用精神の欠如

- ・ローカル・ダウンロードでのみ使用する館、レコード調整が面倒なので書誌は作らない館など、CATはみんなで作るものだという意識がない(低い)参加館がある。
- ・ILLにおいて、依頼はするが受付は極力しないというような館もある。

##### 2) CATデータベースの質と量

- ・先日NACSIS-CAT/ILL業務分析票を各館に配布した。自館は全国平均でどれだけの仕事をしているかをみてもらいたい。
- ・重複書誌が多いが、現状から言えば書誌を作成してくれるだけでもいいのかも・・という考えもある。
- ・雑誌所蔵未更新データについては、以前はNIIからの更新依頼を受けた為か、更新が進んだようだ。こういった強制力も時には必要かもしれない。

##### 3) ILLポリシーの考え方

- ・謝絶率が極端に高い館がある。その原因の1つとして、サービスステータスのON/OFFを自在に行っている(出勤時にONに退勤時にOFFにする等)ことなどが挙げられる。人不足などによるそのような実情を図書館全員が認識しているのならそれは図書館のポリシーといえるが、そうでない担当者の勝手な都合による場合もあるようだ。

課題解決に向けて大書誌ユーティリティ課題検討プロジェクトが立ち上げられた。問題の把握、情報公開し提言をまとめる。現地訪問調査も15校ほど実施した。

#### 5. 最後に：NIIと大学図書館の共同戦略

- ・大学図書館とNIIの緊密さが最近少し薄れてきていることが危惧される。日々の忙しさにまぎれて情報の交換ができていない。
- ・今回のような研修会で、お互いに意見交換ができるのは、NIIとしてもありがたく思っている。
- ・誰の為のサービスかということが重要。大学図書館とNIIが共同して利用者から信頼されるサービスを目指すには、戦略とともに毎日の業務の積み重ねが大事ではないか。